



学校便り

長崎市立日見中学校

第12号
令和6年10月9日
文責 校長 山本

【音楽発表会】

9月27日（金）、音楽発表会を開催しました。9月は毎日のように、授業や昼休み、放課後の時間を使って、学級や学年で練習に取り組みました。一つのことをつくりあげることの大変さが大きい分、達成感もとても大きかったと思います。演奏後の生徒の笑顔がとっても素敵でした。今年は、日見小学校の4、6年生が見学に来てくれました。小学生の目にはどのように映ったでしょう。「中学生はすごいなあ」「あんな中学生になりたいなあ」と思ってくれたらとても嬉しいです。また、保護者や地域の方にも多数ご出席いただきました。皆さん、ありがとうございました。



【市中総体駅伝大会】

10月3日（木）は市中総体駅伝大会でした。夏休みから始めた練習には50名ほどの生徒が参加し、毎日、活気に満ちた活動となりました。練習開始が7時30分ということで、普段よりも早く登校しなければならず、保護者の皆様には何かとご負担をおかけしました。ご協力いただきありがとうございました。選手の皆さん、そして、これまで一緒に練習に参加してきた皆さん、マネージャーとしてお世話してくれた皆さん、お疲れさまでした。きつくてつらいことが多い練習に、互いに声をかけ合って励まし合い、常に前向きに取り組む姿勢は、学校全体に勇気や活力をもたらしました。走り終えた1、2年生が「来年も頑張ります」と語ってくれ、嬉しく思いました。来年も期待しています。



男子	19位	1時間7分02秒（総距離18km）
女子	17位	49分50秒（総距離12km）

【日見川清掃】

10月5日（土）、日見育成協の取組で日見川の清掃を行いました。総勢60名（幼児2、小学生14、中学生9、大人35）で、約1時間半、三国屋橋から下川橋にかけてごみを集めて歩きました。中学生は濡れることもためらわずにひざくらいの深さのところまで川に入り、熱心にごみを集めていました。集めたごみは、ごみ袋24袋分になりました。



【少年主張大会】

10月6日（日）第44回少年主張大会が開催されました。これは、東長崎中・橘中・日見中学校区の青少年育成協議会の主催により長年続けられている大会です。小学校から6名、中学校から8名が意見発表を行いました。自分の将来の夢やSNS問題への意見など、様々な視点で堂々と意見を述べる14名の皆さんは、とても素晴らしかったです。また、当日の進行は中学生が任され、荒川莉美さん、山脇美憂さんがお手伝いをしてくださいました。本校からは、2年1組の宮崎遼さん、3年1組の古川実紅さんが意見発表を行いました。



今回は、宮崎遼さんの意見発表を載せています。ご覧ください。（裏面に続く）

僕には短所があります。それは、緊張しやすいこと。特に、人前で話をするときには緊張し、手足も声も震えます。だから、人前で話をしたくないと思ってきました。そんな僕が、「緊張するから人前で話したくないと言っていられない。自分の声で自分の言葉を伝える力をつけないといけない」と強く決意したきっかけがあります。

それは、中学校で行われた被爆体験講話。三瀬清一郎さんが日見中学校に来てくださり、辛く苦しい体験を詳しく話してくださいました。全員が三瀬さんの話を真剣に聞き、多くの生徒が質問や感想を伝えました。僕にとっても、被爆体験のすさまじさに衝撃を受け、平和を今一度見つめ直す貴重な時間になりました。

講話の内容はもちろんですが、一番、印象に残っているのは、自分の体験を伝えようとする三瀬さんの強い意志でした。使命感に満ちた語りに圧倒されました。原爆の悲劇を二度と繰り返さないために、「伝えたい。伝えなければならない!」という、決意と責任感が、一言一言に宿っていました。三瀬さんの伝える力を全身で受け、「このままではいけない。変わりたい」という気持ちを強くしたのです。

そして、僕は、平和学習実行委員に挑戦することにしました。実行委員は30名。全員で、「平和宣言文」を群読で発表することになりました。群読とは一つの文章を一人で、複数で、全員で読んだりして、分担して発表することをいいます。

まずは、宣言文で自分が伝えたい文を受けもつことにしました。僕は、「被爆者の方々は辛い記憶を絞り出すようにして、原爆の惨状を語り継ぎ、世界に出て、核兵器廃絶を訴え続けてこられました。」という文を伝えたいと思いました。それは、被爆者の方の「訴え続けなければならない」という強い思いに心打たれたからです。

次は読む練習です。最初はただ声を出すだけ。どう読めばいいかをみんなでアドバイスをし合いながら進めました。次第に、「言葉の意味」を考えるようになりました。そして、その言葉の意味を伝えるにはどう声を出せばいいのか。「言葉の意味」だけでなく「原爆の恐ろしさと戦争の無意味さを訴えなければならない」という僕の思いも一緒に伝えたいという気持ちになっていきました。

そして、本番。8月9日全校生徒が集まった体育館で、実行委員全員が、平和宣言の「言葉の意味と伝えたい思い」を自分の声のにのせて、発表することができました。僕たちの思いが伝わっていることは、全校生徒の真剣なまなざしからわかりました。僕は平和宣言文の群読中、緊張で手足が震えることはありませんでした。「伝えるんだ!」そのことしか頭の中になかったように思います。

群読を終え、「被爆者の思いが伝えられた。そして、僕の思いもちゃんと伝わったという満足感でいっぱいになりました。

これらのことを経験し、僕は伝える力を高めるには、自分の「伝えたい」という強い気持ちが一番大切だとわかりました。まだまだ僕の伝える力は不十分で、緊張して声が震えるときが多いです。でも、気づいたことがあります。僕の声が震えていても、みんながちゃんと聞いてくれるのです。今もそうです。あまりうまく話せない僕の話も、目の前の皆さんは、真剣に聞いてくださっている。完璧に話さなくてもいいんだ。何だか、気が楽になりました。うまく言葉が出なくてもいい、肩の力を抜いて、でも「伝えたい」気持ちだけは心の真ん中において、これからも、僕は、伝えることに挑戦していきます。

